

## 平成18年度水質汚濁事故の状況

平成18年度に県や広域振興局等に通報のあった公共用水域における水質事故件数は、表1及び表2のとおり、**74件**と平成17年度に比べ**8件増加**した。魚類のへい死に係る通報が15件（うち13件は調査の結果、原因不明）と、昨年度の4件と比較して大きく増加したことが、件数の増加につながっている。

水質汚濁事故による主な被害の状況は、**水道取水停止が5件**（断水には至らず）、**魚類のへい死が2件**（原因不明の13件を除く）であった。

また、事故の種別としては**油類流出が74.3%**と最も多く、事故原因は、**管理不備や操作ミス・不注意（50.0%）**によるものが多かった。

水質汚濁事故は、平成12年度をピークに減少傾向であったが、平成16年度から**3年連続で増加**しており、特に管理不備や操作ミス・不注意が主な原因を占める油類の流出は後を絶たない状況である。

表1 平成18年度水質汚濁事故の発生状況

		事故種別						合計
		油類流出	農薬流出	化学物質流出	汚水等流出	酸欠、過飽和	その他	
事故原因	管理不備 操作ミス・不注意	34			3 (2)			37 (50.0)
	自動車事故	5						5 (6.8)
	不法投棄	2						2 (2.7)
	自然現象						1	1 (1.4)
	その他	1					2	3 (4.1)
	原因不明	13					13 (13)	26 (35.1)
	合計(%)	55 (74.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.1)	0 (0.0)	16 (21.6)	74 (100)

表2 水質汚濁事故件数の推移

	油類流出	農薬流出	化学物質流出	汚水等流出	酸欠、過飽和	その他	合計
平成8年度	18		1	3		9 (6)	31 (6)
平成9年度	41			2	2 (2)	6 (4)	51 (6)
平成10年度	83 (1)		1	6	1 (1)	3	94 (2)
平成11年度	68		3	4 (1)	1 (1)	6 (2)	82 (4)
平成12年度	84 (1)	1 (1)	3 (1)	4	1 (1)	8 (5)	101 (9)
平成13年度	51		5	1	1	11 (3)	69 (3)
平成14年度	46			2 (1)		11 (5)	59 (5)
平成15年度	41	1	3	7		3 (1)	55 (1)
平成16年度	44		6 (1)	3	4 (3)	5 (5)	62 (9)
平成17年度	55	1 (1)	5 (2)	4		1 (1)	66 (4)
平成18年度	55			3 (2)		16 (13)	74 (15)

注) 〈 〉の数值は魚類へい死事故件数（再掲）